

# <別科課程>

## 令和 6 年度 募集要項

一般社団法人鳳岫社／岐阜伎芸学院

\*本募集要項の内容に変更が生じた場合はホームページにより周知しますので、出願前や受験前は特にご注意願います。

## 岐阜伎芸学院志願者への入学検定料免除について

岐阜伎芸学院では、災害等の被災者の経済的負担を軽減し、進学機会の確保を図るため、入学検定料免除の特別措置を行います。免除の対象となる災害及び被災地域など、免除に関する詳細については、岐阜伎芸学院ホームページの入試情報をご覧ください。

## 本学の入学試験における感染症対策について

本学の入学試験における感染症対策は、下記本学ホームページにて最新情報を随時更新しています。受験生の皆さんへの要請事項の記載もありますので出願前や受験前は必ずご確認ください。

## 受験に際しての注意事項

学校保健安全法施行規則において出席停止が定められている感染症に罹患した場合は、感染の拡大防止のため、学校保健安全法に準じた取り扱いとし、入学試験当日まで治癒していない場合又は出席停止期間を経過していない場合は、受験することはできません。（病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときはこの限りではありません。）

また上記により、受験できなかった場合の追試験等の措置は行いませんのでご留意願います。必要に応じて、手洗い・うがいの励行等といった基本的な感染予防対策や体調管理に努めてください。

募集人員	課程	募集人数
	別科	若干名

### 1 【出願方法】

出願書類の提出は郵送（書留速達）に限ります。

志願者は、下記「3 出願書類等」を取りそろえ、本要項に添付の指定封筒を使用して、下記の出願書類等提出先に郵送（書留速達）してください。

### 2 【出願書類等提出先】

〒500-8106 岐阜県岐阜市東高岩町19番地

一般社団法人鳳岫社 岐阜伎芸学院 入試係まで

### 3 【出願書類等】

書 類 等	摘 要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 志願票</li> <li>・ 受験票</li> <li>・ 写真票</li> </ul>	<p>本要項に添付の用紙を使用してください。なお「検定料納付証明書または振込みの控え」を志願票の所定欄に確実に貼ってください。（※取扱金融機関の収納印が押印されていることを必ず確認してください。）</p>
写真	<p>2枚（4 cm×3 cm）。受験票及び写真票にそれぞれ貼ってください。（上半身、無帽、正面向きのもので、出願以前3か月以内に撮影したもの。）</p>
志望理由書	<p>本要項に添付の用紙を使用してください。</p>
推薦書を用いての受験	<p>本要項に添付の用紙を使用し、2通提出してください。職場の上司・友人・家族などで年齢満20歳以上の者2人を記載者としてください。</p>
履歴書	<p>に添付の用紙または市販されている用紙を使用してください。</p>
検定料	<p>振込手数料は、志願者本人の負担となります。</p> <p>①依頼人氏名欄は、必ず志願者本人の氏名を記入してください。</p> <p>②検定料の振込みは期間内に必ず行ってください。（※土・日曜日 の振込みはできません。）</p> <p>③A T M（現金自動預払機）での振込みはできません。</p>
調査書	<p>文部科学省所定の様式により出身学校長が作成し、厳封したものを提出してください。</p>
返信用封筒 3枚 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験票在中</li> <li>・ 合格通知書在中</li> <li>・ 入学手続案内在中</li> </ul>	<p>本要項に添付の返信用封筒3枚を提出してください。封筒の表にはそれぞれ志願者の郵便番号、住所及び氏名を明記してください。</p> <p>「受験票在中」封筒のみ郵便切手354円分を貼ってください。「合格通知書在中」封筒及び「入学手続案内在中」封筒には郵便切手を貼る必要はありません。</p>

（注）

- 1 出願書類等に不備がある場合は、受理しないことがあります。
- 2 出願書類等及び既納の検定料は、返還しません。ただし、検定料振込み後、出願期間内に出願書類を提出しなかった場合は、当該検定料を返還します。なお、返還対象となった日から5年以内に返還の申し出がない場合は、返還請求を辞退したものとさせていただきます。

3 次の者については、調査書に代えて以下の書類を提出してください。

1) 指導要録等の保存期間の終了、廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合には、卒業証明書及び単位修得証明書を提出してください。単位修得証明書を提出できない場合は、成績通信簿その他志願者が提出できる書類をもって代えることができます。本人が被災等によりこれらの書類も整えられない場合は、出身学校等を所管する教育委員会、知事又は出身学校長が作成したこれに関する証明書を提出してください。また、本人に対して面接等を行うことがあります。

2) 高等学校卒業程度認定試験合格者（大学入学資格検定合格者を含む）は、調査書に代えて、合格成績証明書（合格見込みの者は、合格見込成績証明書）を提出してください。なお、一部の科目を高等学校で修得し免除された者は、在学期間中の調査書又は成績証明書も提出してください。

#### 4 【注意事項】

出願書類記入上の注意

- ① 黒のボールペンを用い、楷書で明確に記入してください。
- ② ※印欄は、記入しないでください。
- ③ 数字は、算用数字で記入してください。
- ④ 提出後は、記入事項を変更することはできません。
- ⑤ 事実を隠したり、偽りを記入した場合は入学後でも入学を取り消すことがあります。
- ⑥ 入学志願票と受験票等の内容が異なる場合は、入学志願票を正として取り扱います。

## 別科課程をめざす方へ

国籍や職業、年齢やセクシャリティーなどを問わず、伎藝に関心のある方を対象に基礎科目を中心とした各種プログラムを開講致します。

また別科課程入学者数に応じて、子ども支援プログラムの人数が Semester 毎に確定致します。

\*大人が学ぶことで、意欲ある子どもたちが伝統文化を学ぶ機会(無償で)を得られるという仕組みです。

お仕事を続けながら伎芸の修得と遊宴文化について学びます。

## アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)

### <入学者選考の基本方針>

#### 1. 社会貢献への意欲と情熱

- ・ 伝統文化への関心だけでなく、地域社会との繋がりを大切にし、子どもたちの成長を支援する熱意を持つ者を選考する。
- ・ 自ら積極的に学び、地域の人々と交流し、地域文化の活性化や社会課題の解決に貢献しようとする意欲を持つ者を選考する。
- ・ 多様な価値観を持つ人々と協働し、共に成長できる柔軟性を持つ者を選考する。

#### 2. 生涯学習への意欲と主体性

- ・ リカレント教育による生涯学習を通して自己研鑽に励み、学び直しを積極的に行う意欲と、生涯にわたって学び続ける姿勢と主体性を持つ者を選考する。
- ・ 時間管理能力、自己管理能力を持ち、学習計画を立てて実行できる者を選考する。
- ・ 情報活用能力を持ち、積極的に情報収集を行い、学習に活かせる者を選考する。

#### 3. 子ども支援への熱意と責任感

- ・ 子ども支援プログラムを通して、意欲ある子どもたちの成長を支援する熱意と責任感を持つ者を選考する。
- ・ コミュニケーション能力、協調性、リーダーシップを持ち、子どもたちと信頼関係を築こうとする者を選考する。
- ・ 創造性、問題解決能力を持ち、子どもたちにとって魅力的な学習環境を提供できる者を選考する。

## ＜入学者に求める学生像と入学者選考方法＞

### 1.入学までに身に付けてほしいこと

- 伝統文化への関心
- 地域社会への理解と社会貢献への意欲
- 生涯学習への意欲
- 時間管理能力、自己管理能力、自主学習の習慣
- 情報活用能力
- コミュニケーション能力、協調性、リーダーシップ
- 創造性、問題解決能力

### 2.入学者に求める学力

- 中学校卒業程度
- コミュニケーション能力
- 論理的思考力

### 3.入学者選考方法

- 書類選考
- 面接
- 筆記試験
- 子ども支援プログラムへの意欲
- 社会貢献活動履歴

## アドミッション・ポリシーの特徴

- 伝統文化への関心だけでなく、自身の夢や目標を明確に持ち、探求心を持ち続ける者を評価します。
- 自ら学び続ける主体性、時間管理能力、自己管理能力、情報活用能力を評価します。

※上記はあくまでも一例であり、実際の入学者選考方法は変更される可能性があります。

# ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）

## <人材育成目標（卒業生が身に付けるべき資質・能力）>

### 1. 地域文化を担う主体性

- 地域文化への深い理解と愛着を持ち、伝統文化を継承・発展させる意欲と責任感を持つ。
- 地域社会との協働を通して、地域文化の活性化に貢献できる力を育てる。
- 自ら課題を発見し、解決策を導き出す問題解決能力を高める。
- 社会課題への深い理解と、地域社会への貢献意欲を持つ。

### 2. 多様性を受け入れる協調性

- 地域住民や子どもたちとの交流を通して、多様な価値観を受け入れる協調性を育成する。
- コミュニケーション能力を高め、互いを尊重し、協働する態度を育成する。
- チームワークを発揮し、地域課題解決に貢献する協調性を育成する。

### 3. 生涯にわたって学び続ける汎用的な能力

- 情報活用能力、問題解決能力、コミュニケーション能力など、社会で必要とされる汎用的な能力を育成する。
- 論理的思考力、批判的思考力、創造性を育成し、社会の変化に対応できる人材を育成する。
- 伝統文化を現代社会に活かす方法を探求し、地域社会に貢献できる人材を育成する。

### 4. 子ども支援への慈善性

- 子どもたちの成長を支援する能力と、子どもたちの伝統文化教育プログラムの遂行のため、慈善性・主体性を養う。
- 子ども支援に関する講演などに参加し、伝統文化に意欲ある子どもたちの成長を支援する。
- 子どもたちとの信頼関係を築き、自身が伝統文化を学ぶことで、子どもたちが安心して継続的に学べる環境を提供していることへの意義・意欲を見出す。

## 5. 伝統文化への敬意と誇り

- 伝統文化への深い理解と敬意を持ち、誇りをを持って継承・発展していく力を育成する。
- 伝統文化の価値を再認識し、現代社会に活かせる方法を探求する。
- 岐阜の伝統文化を世界に発信していく意欲を育成する。

### <プログラムの到達目標（目標としての学修成果）>

#### 1. 知識・理解

- 伝統芸能・文化に関する幅広い知識を理解する。
- 岐阜の地域文化に関する深い理解を持つ。
- 生涯学習に関する意欲。
- 子ども支援に関する貢献意欲を高める。

#### 2. 当該分野固有の能力

- 伝統芸能・文化の基礎的な技術を習得する。
- 地域文化と遊宴文化に関する基礎的な知識を習得する。
- 子どもたちの成長を支援する能力を習得する。

#### 3. 汎用的能力

- 自ら課題を発見し、解決策を導き出す問題解決能力を高める。
- コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を向上させる。
- 情報活用能力、時間管理能力、自己管理能力を高める。

#### 4. 態度・姿勢

- 伝統文化への深い理解と敬意を持ち、責任感と倫理観を持って行動する。
- 自ら学び続ける姿勢を持ち、生涯にわたって自己研鑽に励む。
- 岐阜の伝統文化を継承・発展させ、地域社会に貢献する意識を持つ。

※上記の四つの資質・能力を包含した「課題解決力」「協調性（コーディネート能力）」「汎用的能力」「態度・姿勢」を学生自らが到達目標を設定するうえでの共通的な指針とし、分野の異なる他者と協働して論理的思考と科学的根拠に基づいた課題解決のプロセスを通して、自己の人材価値を生涯にわたって能動的に高めていくことができる「自己創造型学修者」の育成を目標としています。

## <プログラム修了認定（ディプロマ）の方針>

所定の期間在学し、人材育成目標に沿って、各コース、プログラム等で定める「知識・理解」「当該分野固有の能力」「汎用的な能力」「態度・姿勢」の資質・能力を修得し、修了要件を満たした者に、各修了証（領域分野）を授与致します。

# カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

## ＜教育課程編成の基本方針＞

### 1. リカレント教育と社会貢献活動の融合

- リカレント教育による反復学修を通して、社会人としてのキャリアアップと伝統文化の学びを両立できる環境を提供する。
- 子ども伝統文化教育プログラムへの参加を通して、実践的な学びの機会を提供し、社会貢献を実現する。
- 地域住民との交流を通して、地域社会との繋がりを深め、社会貢献活動の活性化に貢献する。
- 自ら課題を発見し、解決策を導き出す問題解決能力を高める。

### 2. 個別指導とグループワーク

- 個々の能力や目標に合わせた個別指導を通して、学習意欲を高め、潜在能力を引き出す。
- グループワークを通して、協調性、コミュニケーション能力などをさらに高める。
- 多様な価値観を持つ人々と協働し、課題解決に取り組む力を育成する。

### 3. 生涯学習を促進する環境

- 学生が主体的に学習計画を立て、実行できる環境を提供する。
- フィールドワーク、インターンシップなど、実践的な学びの機会を提供する。
- ポートフォリオによる学習成果の記録・評価を行い、自己評価能力を高める。

## ＜到達目標に達するための教育課程＞

### 1. カリキュラム編成、学修内容・方法

- 伝統芸能・文化に関する専門科目を体系的に学ぶ。
- 社会課題に関する科目を履修し、社会への理解を深める。
- 子ども支援プログラムに参加し、実践的な学びの機会を提供する。
- 学生の自主性を尊重し、個々の能力や目標に合わせた学習を支援する。
- リカレント教育による反復学修を通して、学び続ける姿勢を育成する。

## 2.学修成果の評価方法

- 試験、レポート、実技など、多様な評価方法を採用する。
- 自己評価、相互評価を取り入れる。
- ポートフォリオによる学習成果の記録・評価を行い、自己評価能力を高める。

※上記はあくまでも一例であり、実際のカリキュラムや学修成果の評価方法は変更される可能性があります。